

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100104
法人名	社会福祉法人ともの家
事業所名	アンジュールともの家
所在地	松山市溝辺町甲94
自己評価作成日	平成24年1月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

23年度の目標に楽しみづくりの工夫をあげて、全職員で協力して取り組みました。畑の作物づくりで収穫の喜び、季節毎の壁飾りづくり、外気浴、音楽などを日々取り入れて、少しでも楽しい気分になってもらえるように工夫しています。ケアパートナーのご家族も個々の入居者の若いころの写真を提供して下さったり、家族の店を出店して、入居者の楽しみのために協力して頂きました。また、地域のボランティアの方による音楽会、お話し会、生け花などもあって、地域、家族、職員で入居者を支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

敬老の日の行事時は、ご家族にも協力していただき、ご本人が一番輝いていた頃の写真を持って来ていただき掲示された。日頃は、あまり感情を表さない利用者が、ご自分の女学校の制服姿の写真を見て、とても嬉しそうな表情になられたようだ。
毎月の「掃除デー」時には、ご家族が来られて掃除をされ、各居室の整理整頓が行き届いている。利用者が居室不在の時には、できるだけ換気するよう心がけておられる。
利用者の重度化に伴い、遠出や長時間の外出は困難になってきている現状ではあるが、車いすを使用している利用者も、日常的に事業所の庭に出て外気浴されたり、近所の散歩ができるよう支援されている。利用者個々の希望で、職員が同行して個別に温泉や外食も楽しまれている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 アンジュールともの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

菅原佐代子

評価完了日

平成 24 年 1 月 20 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者サービスの基本方針の中で「家族、友人、地域との交流を大切にし、社会性の維持、回復に努める」とかかっている。今年度の年間目標に「家族や地域の方の協力を得るように努力する」を立てている。地域に向けて、バザーロビー展を年4回実施。家族はケアパートナーとして協力していただいている。	
			(外部評価) 法人代表や施設長は、職員会議時等に事業所の理念や方針について話しておられる。事業所の理念や方針に基づき、年間目標を立てて毎月振り返り、さらに具体的に月目標を決めて、理念の実践に取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入しており、地域の方にバザー、ロビー展の出品をしてもらったり、バザーや喫茶コーナーも利用者と共に楽しんでもらっている。音楽演奏や踊り、お話会なども地域の方がボランティアで来てくださって、利用者とは交流している。	
			(外部評価) 近所の方達とは、日々の散歩時にあいさつを交わしたり、ふれ合ったりして顔を覚えてくださり、利用者が外に出て行かれた際には、知らせて下さることもある。6月のバザー・ロビー展では、地域の方に案内を出してバザーに出すものを提供して下さる等、協力いただき、売上金は東日本に寄付された。小・中学生の訪問があり交流されたり、秋には、お神輿が来てくださる。職員は、地区清掃で公園の掃除に参加されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域包括支援センターや民生委員や家族の方と認知症人形劇を継続している。運営推進会議で、職員研修と一緒に参加してもらって、理解を深めてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で家族からの意見で近くの公園のスロープ化が実現された(平成23年夏)。車椅子の方や足が弱くなっている利用者の方にとって、公園への利用がよりしやすくなった。年間目標の「楽しみ作りの工夫」の事でも意見をもらって、外気浴、食事づくりなど、より実践の工夫に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、ロビー展や避難訓練と併せて法人内の3~4事業所合同で行われているが、年に数回は、外部評価の結果報告や年度の振り返り等、事業所単独で開催されている。会議では、各事業所の活動報告や今後の行事予定等を報告して意見をうかがっておられる。又、「職員研修会を見てもらいたい」と、会議時に研修を併せて行い、メンバーの方も一緒に勉強をされることもある。	地域の方は、お忙しい方も多いようで、地域からの会議参加者は、現在、民生委員一名になっている。利用者をつながりのあるような方達に参加いただけるよう呼びかけられたり、参加しやすい会議の工夫について考え、いろいろな立場の方が集まってくださるような会議に工夫していかれてほしい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には毎回参加していただき、情報交換などをして協力関係を築いている。	
			(外部評価) 運営推進会議時に、市の担当者の方から、ご家族と一緒に取り組む「掃除デイ」は、「他にない独創的な取り組み」と評価いただき、又、介護度が重度の利用者が多くなったことについての報告に対して、「個別にその人その人の楽しみを見つけることが必要」とアドバイスをいただいた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間にも徘徊される方がいて、一部職員の拘束行為があったが、代表者からの指摘により、夜間の玄関の施錠以外は拘束しない事に、全ての職員が取り組んでいる。	
			(外部評価) 日中は、玄関の出入りは自由になっており、気ままに外出される利用者は、ご家族と相談して、GPSを使用しておられる。又、夜間出かけるような利用者もあり、ユニットの出入り口を夜間は施錠されていたが、「拘束にあたる」と法人代表者から指摘があり、ユニット出入り口には施錠せず、夜間は玄関のみ施錠することにされた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が自覚をもって、虐待のないように努めている。身体だけでなく、言葉も虐待につながる事を職員間で注意しあっている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、利用者の中に、この制度の活用の該当者はおられない。前前年度に、権利擁護に関して、理事長より研修があり、成年後見制度などについて学んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用相談があった時は施設見学や話し合いをしてもらっている。契約の締結、解約について、納得していただけるように十分な説明をこころがけている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の意見や要望をよく聞くようにしている。個別に家族との連絡ノートや連絡ボードで要望を書いてもらい、全職員に行きわたるようにしている。	
			(外部評価) 月1回、担当職員が利用者の状況についてご家族に手紙で報告されており、又、ご家族の来訪時には、ご本人の日々の状況の記録を見ている。運営推進会議時に、事業所の年間目標である「楽しみ作りの工夫」について話し合った際には「家族ができることはないだろうか」というご家族からの声もあり、紙芝居や楽器演奏等に協力していただき、利用者の楽しみをともに支援されている。又、法人主催の夏祭りやバザー・ロビー展の際には「家族会」が、ミニドラ焼きやかき氷等の店を出してくださった。法人全体で3ヶ月に1回、「ともの家だより」を作成し、各事業所の取り組み等を載せておられ、又、法人の家族会も「家族の会だより」を発行して、家族会や法人の活動等を紹介されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、職員会議、研修会に代表者が参加して、職員の意見を聞いている。職員提言メモでその意見を反映している。	
			(外部評価) 職員は、日ごろから利用者のケアについて意見やアイデアを出して話し合い、利用者のより良い暮らしの支援に努めておられる。又、職員は、法人内の研修・広報・地域交流・アルバム・アクティビティー委員会のいずれかに属し、意見を出し合い責任を持って取り組めるような仕組みを作っておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員がやりがいや向上心を持って働けるように、率先して研修会や委員会などを開催し、職員の意見を聞いている。また、スーパーバイザーの横山紘子氏に泊まりこみで現場指導を依頼して、職員環境整備に努めている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修を月1回は開催し、外部研修への参加も奨励している。新人、中堅、リーダー別の研修の機会も設けている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣グループホーム交流会やサービス事業所連絡会に参加して交流や情報交換をしている。他の事業所に研修会の案内をして、相互にサービスの質の向上をさせていく取組みをしている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時にはケース検討会を開き、ご家族に参加していただき、利用者本人が安心して暮らせるように、話し合いをしている。また本人に寄り添うことで、信頼関係づくりに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前や入居時に家族と話し合いを持ち、家族などが困っていること、要望などによく耳を傾け、信頼づくりに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居開始前後に本人の事をよく知るように努め、また、家族との話し合いで、必要としている支援を見極めるようにしている。話し合いで訪問マッサージのサービス利用もしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に人生の先輩という尊厳の気持ちで接しながら、得意な分野での役割をさせていただいている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族の絆を大切にしながら、共に支えていくケアパートナーと位置づけている。毎月、本人の様子を文章にして、家族へ伝えたり、各行事への参加をお願いしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人にとって大切な馴染みの人の来訪も自由にしてもらっている。ご家族との外泊、食事会などされる方もおられ、馴染みの方との関係がとぎれないようにしている。 (外部評価) お正月には、3名の利用者がご自宅に戻ってご家族と一緒に過ごされた。又、週に4~5日、食事介助に来られているご家族もある。毎週、友人がご本人の好物等を持って訪問して下さり、利用者も楽しみにされている。職員は、利用者が携帯電話でご家族と話す際にはサポートをされたり、又、ご家族から荷物が届くと、お礼状を書くサポートもされている。又、敬老の日の行事時は、ご家族にも協力していただき、ご本人が一番輝いていた頃の写真を持って来ていただき掲示された。日頃は、あまり感情を表さない利用者が、ご自分の女学校の制服姿の写真を見て、とても嬉しそうなお表情になられたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に外出して、お茶を飲んだり、同じテーブルに誘って、話をしたり、歌をうたったりしてもらって、孤立感をもたないように支援している。また、誕生会ではお祝いの言葉や歌など、みんなで祝っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された方のご家族にも行事案内などを送って、いつでも気軽に来ていただけるような関係を継続している。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人または家族の思い、希望、意向を聞き、ケアプランに反映したり、アセスメントシートに記録して、スタッフ間で共有している。 (外部評価) 年に1~2回、担当職員がアセスメントを取り直しておられる。アセスメントシートは、ご家族にも渡し、食事や入浴等、暮らしの場面毎の「本人・家族の思いや希望」の欄に記入していただき、介護計画につなげるようにされている。意思の表出が難しい重度の利用者の「楽しみ作りの工夫」については、ご本人の「感じる力」を活かして支援されている。又、重度の利用者のご家族の「自宅に外泊させたい」という願いの実現に向けて、現在、準備されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から話をうかがって、アセスメントシートやセンター方式に記録して、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのその日の様子を個人記録に書き、また、スタッフ間で申し送りをして、現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人の担当職員が中心となって、本人や家族の意向を聞き取り、他の職員と相談して、介護計画を立てている。毎月の職員会議でも、個々の利用者の現状の話し合いをしている。	
			(外部評価)	
			アセスメントして把握したご本人やご家族の思いや希望、意向について、利用者個々の担当職員を中心に職員で話し合い、介護計画を作成されている。生活支援の他に、楽しみ支援や利用者によって、役割支援が計画されている。状態に変化がなければ、6ヶ月毎に見直しておられる。	事業所は、日々のケアについて詳細に記録されている。今後さらに、介護計画に沿ったケアの記録が分かりやすいような記録を工夫されてみてはどうか。個別記録に目を通すようなご家族も、介護計画を理解しやすく、暮らしやケアについて意見や要望が出しやすいのではないだろうか。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別記録に日々の様子、気づきなどを記録し、職員間で情報を共有しながら、日々の実践に活かし、介護計画の見直しにも反映させている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人、家族の要望に応じて自由な外出、外泊などに柔軟に対応している。訪問マッサージ、訪問理容、訪問診療を受けられたり、生け花、書道などのクラブ活動にも参加してもらっている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			近くの公園でくつろがれたり、近くの商店やスーパーに買い物に行かれている。必要に応じて、消防署、民生委員、小学校、ボランティアの方にも協力してもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 各本人や家族の希望にそって、かかりつけ医を選んで もらって、訪問診療や往診、また受診をしている。医 療情報は個別記録に記載している。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医は、ご本人やご家族の希望に沿い支援さ れており、入居以前からのかかりつけ医の受診は、ご 家族が付き添っておられる。協力医の往診が、3週に1 回ある。重度の利用者で、24時間対応可能な医療機関 の訪問診療を利用されている方もある。看護師資格を 有する職員とは、24時間電話で相談できるようになっ ている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 通常週4日、看護職員が勤務して、健康管理をおこ なっている。受診、往診の対応、薬の管理、家族や介 護職員からの相談に応じている。緊急時には24時間 相談できる体制をとっている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院、退院ともに、安心してすごせるように、病院関 係者や家族と情報交換や相談をしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族、職員と早い段階から話しあいをおこない、方針 を共有している。</p> <p>(外部評価) 利用契約時に管理者は、「ご本人やご家族の希望や協 力があれば、看取りまで支援できる」ことを伝えてお られ、又、機会を捉えて意思確認をされている。現在 は、「その時にならないと分からない」と考えている ご家族が多いようである。事業所では、看取りに関す る指針を整備し、職員は法人内・外で看取りについて 勉強されて、ご家族や医療機関と連携して、その人ら しい看取りを支援できるよう取り組まれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 随時、看護師による指導を受けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防職員の指導を受けながら、消防訓練を地域の防災士、民生委員、家族とともにいった。 (外部評価) 事業所では、年2回、避難訓練を実施されている。7月には、運営推進会議前に消防署の指導のもと、日中の火災を想定した避難訓練を実施されて、ご家族や会議の参加者に訓練を見ていただき、意見を出していただいた。又、事業所では東日本大震災後に、家具等の固定の見直しをされた。今後は、さらに、近所の方達にも避難訓練に参加していただく等、いざという時に協力し合えるような体制作りをすすめていかれてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ともの家の運営理念、基本方針を全職員が共有して、職員はそれに基づき、一人ひとりの思いを尊重した支援をおこなっている。 (外部評価) 管理者は、運営方針の中の「人間としての尊厳を守る」ことを、日頃から職員に話しておられる。調査訪問日の昼食時に、職員は、利用者へていねいな言葉でお話されており、又、職員が利用者へケアされた後に「ありがとうございます」と伝えているような様子が見えた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常に利用者の意向を第一として、自己決定ができるように配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の勤務者が一人ひとりのペースに添えるように、個性を大切にしている。また、その日の状況、その時の思いで柔軟な支援をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) できるだけ、その日に着る洋服などを選んでもらっている。だらしなくならないように整容にも気をつけている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 月に2回、昼食作りを共にして、テーブルを囲んでの食事を楽しむようにしている。食事の準備や片づけもできる方には一緒にしてもらっている。	
			(外部評価) 昼・夕食の主菜が、法人の厨房から届き、ご飯と汁物、朝食を事業所で調理されている。朝食は、ご飯、又は、パンを選べるようになっていく。利用者の状態に応じてテーブルを別けておられ、職員は、食事の介助をしながら利用者と同じものを食べておられる。月2回、昼食は利用者の希望を採り入れ、お好み焼きやなべ物等を一緒に作ってテーブルを囲み、楽しまれている。誕生日には、お寿司等、ご本人のお好きな献立にして、お祝いをされている。低い椅子やテーブル、足台等を利用者個々に合わせておられ、食べやすい姿勢を保つ工夫をしておられる。調査訪問日のデザートは、ご家族からいただいた「晩白柚(ばんぺいゆ)」で、食卓の話題になっていた。おやつは、ホットケーキやぜんざい等、事業所で手作りを心がけておられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康チェック表や水分チェック表にその日に記録をして、全職員が意識して、支援している。水分がとりにくい方にはゼラチンや果物などを提供したり、食事摂取状態の良くない時には、栄養補助食品を随時補っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きの支援、また、歯磨きが出来ない方にはガーゼで拭き取りの口腔ケアをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			トイレ誘導表に記録して、全職員が排泄パターンを把握できるようにしている。日中はできるだけ布パンツにして、トイレ誘導の支援をしている。	
			(外部評価)	
			昼間・夜間ともに、布パンツにパットを使用して過ごせるよう支援されており、利用者の排泄の傾向等により、適切なパットを使用できるよう職員で検討されている。居間に続くトイレのドアには、「厠」と表示されている。事業所では、清拭用の布に使う古シーツ等を多く必要とするため、現在、家族会の会長に収集の協力をお願いされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分や繊維食品の摂取に注意して、できるだけ自然排便に努めている。歩行、体操などの運動も心がけている。	
			(外部評価)	
			入浴のお誘いは3日に1回ぐらいのペースでしているが、本人の希望に沿うようにしている。重度の利用者も機械浴でなく、職員二人介助で湯船で温めてもらうようにしている。また、足湯なども随時おこなっている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			午後に入浴するようになっており、ご本人の希望に沿って、現在は個々に週2~3回入浴を支援されている。重度の方も、入浴用車いすを使用されたり、2人介助で浴槽で温まれるように支援しておられる。柚子湯や菖蒲湯等、季節感も大切にされている。又、足が冷える利用者には、就寝前に足湯の支援をされており、利用者やご家族にも喜ばれている。	
			(外部評価)	
			午後に入浴するようになっており、ご本人の希望に沿って、現在は個々に週2~3回入浴を支援されている。重度の方も、入浴用車いすを使用されたり、2人介助で浴槽で温まれるように支援しておられる。柚子湯や菖蒲湯等、季節感も大切にされている。又、足が冷える利用者には、就寝前に足湯の支援をされており、利用者やご家族にも喜ばれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			外気浴や運動などをできるだけとりいれ、日中気分をリフレッシュしてもらって、夜間に安眠できるようにしている。	
			(外部評価)	
			外気浴や運動などをできるだけとりいれ、日中気分をリフレッシュしてもらって、夜間に安眠できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬袋に処方されている薬名、用法、用量が記入されている。服薬時には、緊張感をもって服薬してもらっている	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握して、役割発揮をしていただいている。手芸、壁飾り作り、食器拭き、薪運び、洗濯物干し、窓拭き、野菜収穫などその都度してくださっている。楽器演奏、買い物や散歩、生け花、習字などにも参加されている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添って、自由に外出できるようにしている。畑の野菜収穫、玄関先での外気浴、近くの公園への散歩も日常的に行っていただいている。近くのともの家にもお互いに行き来している。また、外食や温泉にも個々の希望で出かけた。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、遠出や長時間の外出は困難になってきている現状ではあるが、車いすを使用している利用者も、日常的に事業所の庭に出て外気浴されたり、近所の散歩ができるよう支援されている。利用者個々の希望で、職員が同行して個別に温泉や外食も楽しまれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、お金を所持されている方は居ない	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族が携帯電話を用意してくださり、かけたい時にはお手伝いさせていただき、ご家族との会話を楽しまれている。遠方のご家族と手紙のやりとりをされている方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの壁飾りや花でその時の季節を感じてもらっている。また、利用者にとって懐かしい家具やミシンなどを置いている。リビングのまきストーブはやわらかくて温かい空間をつくっている。音が不快にならないように、スリッパをやめている。	
			(外部評価) 玄関前のアプローチや、居間の中心にある丸木の柱、床等、木の温もりがある造りになっている。テーブルの上には、さざんかの花が飾っており、暖炉のまきストーブの上には、やかんを掛けておられた。居間にある屏風には、利用者のお習字の作品が飾られている。調査訪問日は積雪があり、職員が作った雪だるまが居間からよく見えるように置かれていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングの各所にコーナーを設け、独りになれる所、気の合う人と過ごせる所など、居心地よくできるようにしている。	
			(外部評価) 家族の協力により、本人が居心地よく過ごせるように、机、椅子、仏壇、鏡台など置いている。また、家族との写真や思い出の写真も飾っている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自宅から持って来られた鏡台に、化粧水や乳液を置いておられ、入浴後にスキンケアする利用者をサポートされている。出身高校の芸術祭のポスターを貼っておられたり、又、ご家族が職員へメッセージを書く「連絡ボード」を用意されている居室もみられた。毎月の「掃除デイ」時には、ご家族が来られて掃除をされ、各居室の整理整頓が行き届いている。利用者が居室不在の時にはできるだけ換気するよう心がけておられる。	
			(外部評価) トイレや浴室などにはプレートやのれんを掛けてわかりやすくしている。各居室には個々の表札を掛けている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室などにはプレートやのれんを掛けてわかりやすくしている。各居室には個々の表札を掛けている。	
			(外部評価)	